



不運な侵入者

開始条件: レベル5のティンカラー

目的: 12 ラウンド、少なくとも1人の街の衛兵を守り抜く

序章:

ああ、いじくり回すのが楽しいのさ! 暇があれば、有角区北西の防壁沿いの工房で過ごしていた。誰の邪魔にもならず、静かで、しかも家賃が安いときてる!

近ごろは、戦闘に役立つ、手持ちサイズのポーション・ディスペンサーの開発に勤しんでいた。その開発の最終段階に達したとき……

「奴らが壁を越えて来た!」と大きな騒ぎが外で持ち上がり、君の集中力は途切れてしまった。怒りのあまりレンチをテーブルへと叩きつけ、はた迷惑な騒ぎを起こしている連中を見てやろうと工房を出た。

扉から出て防壁に目を向けると、小規模な獣じみた群れではあったが、防壁を越え、市街に降りて来るではないか。目の前で起きているパニックを目の当たりにする。この地区には、一握りの衛兵しかいない。ヴァームリングの暴走を阻止するには、死に物狂いになる必要があった。

「援護が来るまで、街を守り抜くぞ!」衛兵のひとりが叫んだ。街など知ったことではないが、工房が破壊でもされたら、これまでの研究で得られた貴重な成果を、再現できる保証はない。

特別ルール:

すべての街の衛兵は君の仲間であり、他のすべてのタイプのモンスターの敵です。ただし衛兵の装甲 は-1。衛兵は、君の攻撃修正の山を使用しますが、各ラウンドの行動は対応するモンスター能力カードにしたがいます。街の衛兵が4人全員死亡すると、君はこのシナリオに敗北します。

偶数ラウンド終了時、通常モンスターのヴァームリングの斥候(通常)が、各 **a** のヘクスに1体ずつ(計4体)発生させます。

終章:

爆弾袋は空になってしまった。だが、さらに多くの邪悪な生き物が壁を越えてやって来る。最後の矢をクロスボウにつがえ、狙いを定めようとしたが、疲れ果てて膝へと滑り落ちてしまう。

敵がこちらに突進してくる。その瞬間、背後から鎧のたてる音が聞こえてきた。完全武装の兵士団が、ヴァームリングと接敵するため、君を追い越していく。流れは変わり、数分でヴァームリングスどもは死に絶えた。

君は、咳きこみながらゆっくり立ち上がる。兵士たちは君の存在など気にも留めない。それは問題ではなかった。ついに仕事を終わらせるための、平穏と静寂を手に入れたのだから。

報酬:

アイテム 135 番〈集中光線銃〉



街の衛兵



ヴァームリングの斥候



ヴァームリングのシャーマン



負傷の罘 (× 2)



壁の一部 (× 2)

使用する
地形タイル:

Nib
Gib

